

航空事業論 I

科目ナンバリング MAN-237
選択必修 2単位

宮崎 弘基

1. 授業の概要(ねらい)

今年開催される東京オリンピック・パラリンピックを追い風に、訪日外国人観光客の目標人数は4,000万人とされ、2025年には55年ぶりに大阪での国際博覧会開催が決定しています。また観光産業は政府の掲げる成長戦略の柱の一つとされ、2030年の目標人数は6千万人と掲げています。

そのような環境下において航空事業の担う役割は大きく、期待される産業です。

本授業では日本の航空会社を中心にその歴史や役割を学び、台頭著しい格安航空会社(LCC)ビジネスとも比較しながら多角的に航空事業のあり方や問題点について考察します。

加えて航空関連産業で従事している実務者を外部講師として招聘し、現場の実践的な情報や知識が習得できるように努めます。

2. 授業の到達目標

- ①主に航空関連の輸送や空港業務、関連会社等の航空業界における役割が理解できます。
- ②航空ビジネスに関連する基礎的な知識や考え方、問題点について理解ができます。

3. 成績評価の方法および基準

期間中に2回の小テスト(評価割合60%)と期末テスト(評価割合40%)を実施して評価します。
テストの実施日やその方法については授業中に予め伝えます。

4. 教科書・参考文献

参考文献

井上泰日子 著 『最新航空事業論[第2版] エアライン・ビジネスの未来像』 日本評論社

5. 準備学修の内容

海外の空港コードや都市コード、航空会社コードの一覧表を配付するので、授業以外の時間での予習と復習が必要です。

各授業の中で簡単な確認を行うので、これらのコードは準備学修として覚えるように努めて下さい。

6. その他履修上の注意事項

日頃より航空ビジネス関連のニュースや情報には常に興味を持つようにしておいて下さい。
また学生自身が航空機を利用する際には、講義内容に関連させた視点で情報の収集に努めて下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション(授業の目的と進め方)
- 【第2回】 世界の航空の歴史(揺籃期)を学ぶ
- 【第3回】 世界の航空の歴史(黎明期)を学ぶ
- 【第4回】 授業内容の確認①(プリント配付)・格安航空会社(LCC)を学ぶ
- 【第5回】 理解度確認テスト①とその解説①
- 【第6回】 ゲストスピーカー①(予定)
- 【第7回】 欧州の主な空港コード・チャーター便を学ぶ
- 【第8回】 アジアの主な空港コード・IATAの業務を学ぶ
- 【第9回】 授業内容の確認②(プリント配付)・世界の航空会社コードを学ぶ
- 【第10回】 理解度確認テスト②とその解説②
- 【第11回】 ゲストスピーカー②(予定)
- 【第12回】 航空会社のマイレージプログラムを学ぶ
- 【第13回】 航空連合(アライアンス)とコードシェア便を学ぶ
- 【第14回】 授業内容の確認③(プリント配付)と解説
- 【第15回】 全体総括(期末テスト)